

公立大学

○ 札幌市立大学

授業科目名	ボランティア活動を考える		
担当教員(学内又は学外)	学外教員	授業期間	半期
担当教員の専門分野	社会福祉援助技術	共通・専門等の別	共通
開設学部(学科)及び年次	デザイン学部2年次、看護学部2年次	授業のレベル	初級・入門
平成20年度履修者数	計18名(男子学生3名 女子学生15名)	授業区分	講義
単位数	2	ボランティア体験の時間数	なし
必修・選択の別	選択		
授業目的	ボランティア活動の起源、活動を支える思想、活動の今日的状況と課題について学ぶ。		
授業内容	1. ボランティアとは 2. 地域におけるボランティア活動の実際 3. 社会福祉現場におけるボランティア活動とは 4. 福祉教育現場におけるボランティアとは		
教科書	なし		
授業の工夫点			
授業の評価方法	出席及びリアクションペーパー50%、レポート50%		
授業のサポート体制	ない		
学外の関係機関・団体との連携	ない		
今後の授業の継続	今後も継続		

○ 青森県立保健大学

授業科目名	国際ボランティア論		
担当教員(学内又は学外)	学内教員	授業期間	半期
担当教員の専門分野		共通・専門等の別	専門
開設学部(学科)及び年次	社会福祉学部2年次対象	授業のレベル	初級・入門
平成20年度履修者数	計46名(男子学生7名 女子学生39名)	授業区分	講義
単位数	2	ボランティア体験の時間数	なし
必修・選択の別	選択		
授業目的	ボランティアについての理念、歴史、組織、実践について学習する。		
授業内容	第一部 ボランティアとボランティア活動 第二部 国際社会とボランティア活動		
教科書	資料集のCD		
授業の工夫点			
授業の評価方法	授業への出席(20%)、課題提出(30%)、筆記試験(50%)		
授業のサポート体制	ない		
学外の関係機関・団体との連携	ない		
今後の授業の継続	今後も継続		

○ 横浜市立大学

授業科目名	まちづくり演習		
担当教員(学内又は学外)	学内教員	授業期間	半期
担当教員の専門分野	地方自治論・憲法学	共通・専門等の別	その他(専門教養ゼミ(いわゆるゼミナール))
開設学部(学科)及び年次	国際総合科学部	授業のレベル	上級
平成20年度履修者数	計11名(男子学生4名 女子学生7名)	授業区分	演習
単位数	2	ボランティア体験の時間数	なし
必修・選択の別	選択		
授業目的	地方自治に関する基本的知識を身につけることを目標にします。		
授業内容	まちづくり、都市自治をテーマにした図書を講読します。受講者は分担してレジュメを作成し、順番に報告します。この報告をもとに、受講者全員で討論します。最終的にレポートを作成してもらいます。 必要に応じて講義を行います。 第1週 オリエンテーション。自己紹介。 第2週 文献の紹介と選択。報告担当の割り当て。 第3週 レジュメによる報告のかたちで文献を読み進めます(～第14週)。 第15週 総括		
教科書	随時指示		
授業の工夫点			
授業の評価方法	出席状況、授業における報告と発言、最終レポートを総合して評価します。		
授業のサポート体制	ない		
学外の関係機関・団体との連携	ない		
今後の授業の継続	今後も継続		

授業科目名	NPO/NGO実習		
担当教員(学内又は学外)	学内教員	授業期間	集中授業
担当教員の専門分野	地域社会政策・市民まちづくり政策・生活と福祉の経済学	共通・専門等の別	共通
開設学部(学科)及び年次	国際総合科学部	授業のレベル	初級・入門
平成20年度履修者数	計15名(男子学生2名 女子学生13名)	授業区分	実習
単位数	1	ボランティア体験の時間数	なし
必修・選択の別	選択		
授業目的	市民活動などの実態を知り、社会形成に果たすNPO・NGOの役割を学ぶ。		
授業内容	<p>夏休みに、集中的に実施する。 横浜市市民活動支援センターの主催する「夏！市民活動体験塾2005」に参加して、活動を行い、それを記録し報告しあう。講義開催にあたっては事前に説明会を行う。 この実習は、横浜市立大学が横浜市市民活動支援センターにお願いして実施します。市民活動支援センターでは、現在、実習を受け入れてくれる団体を募集中です。その上で、市民活動支援センターが応募した学生と市民団体とのすり合わせの場を設定に協力します。なお、村橋は市民活動支援センターの運営会議の会長を務めています。</p> <p>①実習を単位としてとりたい学生は、通常の科目同様、履修登録を行ってください。 ②参加希望者への説明会を行います。 本学では、4月13日(木)の3限に説明会を行います。場所は追って知らせます。 ③実習受け入れ先の団体と学生のお見合い会を行います。そのときに学生を対象とした事前説明会を行います。 日時:未定 予定場所:横浜市市民活動支援センター(桜木町駅下車徒歩5分)TEL 045-223-2666 〒231-0062横浜市中区桜木町1-1-56みなとみらい21クリーンセンター http://www.npo-c.city.yokohama.jp/ ④7月～9月(なるべく学生の都合に合わせて)中に体験実施 ⑤事後研修会を行います。10月に、団体と学生の体験をふりかえって活動成果を話し合います(場所未定)。 ⑥一昨年度実施団体</p> <p>「子ども・青少年分野」NPO法人こども応援ネットワーク、NPO法人ピアわらべ、アンダンテ、こどもの生き生きスペースづくり塾、子育てまち育て塾、たまごっこ、ユースサポートネット・リロード、親子のひろば『まんま』、鯛ヶ崎公園プレイパーク、日本宇宙少年団・横浜分団、片倉うさぎ山公園あそび場管理運営委員会。 「子ども・青少年福祉分野」NPO法人楠の木学園、よろずえ商会、中区障がい者生活支援スペース ぽーと。 「子ども・青少年・環境保全分野」地球チャイルド「環境保全分野」NPO法人ソフトエネルギープロジェクト、トンボはドコまで飛ぶかフォーラム、荒井沢緑茶塾 楽農とんぼの会、新治市民の森愛護会、大岡川Fun Club</p>		
教科書	随時指示		
授業の工夫点			
授業の評価方法	各自のレポートを報告しあい、全体の総括を各々が書き加えて執筆したものを評価する。 出席点、団体の評価、教員の評価によって判断する。		
授業のサポート体制	ない		
学外の関係機関・団体との連携	横浜市市民活動支援センター		
今後の授業の継続	今後も継続		

授業科目名	まちづくり体験実習		
担当教員(学内又は学外)	学内教員	授業期間	集中授業
担当教員の専門分野	地域社会政策・市民まちづくり政策	共通・専門等の別	専門
開設学部(学科)及び年次	国際総合科学部	授業のレベル	中級・応用
平成20年度履修者数	計10名(男子学生3名 女子学生7名)	授業区分	実習
単位数	4	ボランティア体験の時間数	なし
必修・選択の別	選択		
授業目的	まちづくり活動を実際に体験し、その苦勞や楽しさを知ることを通して、社会参加の意義を理解することです。		
授業内容	<p>横浜市内を中心とした広義のまちづくり団体(駅前再開発、道路建設計画、商店街振興、ホームレス支援、障害者支援等々)に関わる市民団体、NPO/NGO、行政、企業などで、グループに分かれて体験実習を行い、まちづくり課題へのアプローチの方法を学びます。</p> <p>(1)夏休み前(5～6月)に、テーマについて何回か学習会を行います。 (2)夏休み中を中心として、体験実習を行います。 (3)秋にレポートを提出してもらいます。 (4)レポートをもとに討論を行います。</p>		
教科書	随時指示		
授業の工夫点			
授業の評価方法	出席、実習先の評価、レポート、受講生同士の討論を総合して評価します。		
授業のサポート体制	ない		
学外の関係機関・団体との連携	ない		
今後の授業の継続	今後も継続		

授業科目名	市民によるまちづくり		
担当教員（学内又は学外）	学内教員	授業期間	半期
担当教員の専門分野	地域社会政策・市民まちづくり政策・生活と福祉の経済学	共通・専門等の別	専門
開設学部（学科）及び年次	国際総合科学部	授業のレベル	中級・応用
平成20年度履修者数	計46名（男子学生28名 女子学生18名）	授業区分	実習
単位数	2	ボランティア体験の時間数	なし
必修・選択の別	選択		
授業目的	最近盛んになってきた街づくりに市民が参画している状況を把握するとともに、その方法・成果・問題点等について学ぶ。		
授業内容	<p>大都市を中心に現在展開している市民による街づくり事例を紹介し、その成功理由・失敗理由等を考察し、特に京浜地帯における市民参加の方法を探る。</p> <p>年度途中でフィールドワークを実施しレポートを課する。</p> <p>①まちづくり思想の我が国における展開Ⅰ ②まちづくり思想の我が国における展開Ⅱ ③アメリカ合衆国および西欧におけるまちづくり思想の展開Ⅰ ④アメリカ合衆国および西欧におけるまちづくり思想の展開Ⅱ ⑤まちづくりデザインの考え方Ⅰ ⑥まちづくりデザインの考え方Ⅱ ⑦市民によるまちづくりワークショップの活用 ⑧市民によるまちづくりグループ活動の展開 ⑨市民によるまちづくり町内会系とボランティアグループとの連携 ⑩市民によるまちづくり運営組織活性化の方法 ⑪市民によるまちづくりイベントを活用した戦略の展開 ⑫市民によるまちづくり成果上げの方法 ⑬市民によるまちづくり事業展開の手法 ⑭市民によるまちづくり地域総意によるまちづくりへの方法 ⑮全体の整理</p>		
教科書	随時指示		
授業の工夫点			
授業の評価方法	出席をしない学生には単位をあげられない。レポート提出により評価する。		
授業のサポート体制	ない		
学外の関係機関・団体との連携	ない		
今後の授業の継続	未定		

授業科目名	まちづくり演習		
担当教員（学内又は学外）	学内教員	授業期間	半期
担当教員の専門分野	地域社会政策・市民まちづくり政策	共通・専門等の別	その他（専門教養ゼミ（いわゆるゼミナール））
開設学部（学科）及び年次	国際総合科学部	授業のレベル	上級
平成20年度履修者数	計21名（男子学生8名 女子学生13名）	授業区分	講義
単位数	2	ボランティア体験の時間数	なし
必修・選択の別	選択		
授業目的	現代先進国社会や第3世界における経済・社会問題や援助のあり方など、まちや社会を作る運動についての基礎的理解を目指します。		
授業内容	<p>まちづくりには、先進国における経済・社会問題や第三世界における経済・社会問題、それに関わる制度や姿勢など、さまざまな問題に関する知識や思考を要します。</p> <p>本ゼミでは、最近出版された書籍の中で、重要と思われる書籍を皆さんに提示し、その中から皆さんに読んでみたいと思う本を選択していただき、それを輪読する形式を考えています。毎回、1章ずつ個人ないしグループで分担し、分担者に報告していただくとともに、重要な内容に関して、みなで討論をしていきます。</p>		
教科書	随時指示		
授業の工夫点			
授業の評価方法	報告や発言内容を見て評価します。		
授業のサポート体制	ない		
学外の関係機関・団体との連携	ない		
今後の授業の継続	未定		

○ 群馬県立女子大学

授業科目名			
授業科目名	ボランティアの基礎		
担当教員(学内又は学外)	学外教員	授業期間	半期
担当教員の専門分野	毎回違う分野のボランティア実践者を講師に招き、オムニバス形式の講義	共通・専門等の別	共通
開設学部(学科)及び年次	全学部1年次	授業のレベル	初級・入門
平成20年度履修者数	計12名(女子学生12名)	授業区分	講義
単位数	1	ボランティア体験の時間数	なし
必修・選択の別	選択		
授業目的	ボランティアに参加するための基礎知識の習得		
授業内容	1. ガイダンス 2. 福祉のボランティア 3. 図書館でのボランティア 4. 芸術活動に関わるボランティア 5. 国際協力に関するボランティア 6. 災害被災者に関わるボランティア 7. 自然保護に関するボランティア		
教科書	講師によるレジュメ		
授業の工夫点			
授業の評価方法	授業の出席とレポートによる評価		
授業のサポート体制	ない		
学外の関係機関・団体との連携	各分野の講師派遣を関係機関に依頼している。		
今後の授業の継続	今後も継続		

授業科目名			
授業科目名	ボランティア入門		
担当教員(学内又は学外)	学外教員	授業期間	半期
担当教員の専門分野	毎回違う分野のボランティア実践者を講師に招き、オムニバス形式の講義	共通・専門等の別	共通
開設学部(学科)及び年次	全学部1年次	授業のレベル	初級・入門
平成20年度履修者数	計12名(女子学生12名)	授業区分	講義
単位数	1	ボランティア体験の時間数	なし
必修・選択の別	選択		
授業目的	ボランティアに参加するための基礎知識の習得		
授業内容	1. ガイダンス 2. ボランティアの本質 3. ボランティア・ニードと活動スタイル 4. ボランティアとお金 5. ボランティアと教育 6. ボランティア自治体 7. ボランティアとNPO		
教科書	講師によるレジュメ		
授業の工夫点			
授業の評価方法	授業の出席とレポートによる評価		
授業のサポート体制	ない		
学外の関係機関・団体との連携	各分野の講師派遣を関係機関に依頼している。		
今後の授業の継続	今後も継続		

○ 茨城県立医療大学

授業科目名	医療とボランティア活動		
担当教員（学内又は学外）	学外教員	授業期間	集中授業
担当教員の専門分野	社会福祉学	共通・専門等の別	その他(専門基礎)
開設学部(学科)及び年次	作業療法学科2年、理学療法学科3年、4年、看護学科2年	授業のレベル	中級・応用
平成20年度履修者数	計14名（男子学生2名 女子学生12名）	授業区分	演習
単位数	1	ボランティア体験の時間数	6時間
必修・選択の別	選択		
授業目的	将来医療者をめざす者として、医療におけるボランティア活動の意義を認識するとともに、ボランティア活動に参加する場合と保健医療の現場にボランティアを受け入れる場合の両方の視点から、必要な教育や組織運営のあり方、ボランティア活動推進のための社会資源の活用方法を理解する。		
授業内容	1回 オリエンテーション①概論ボランティア活動とは(グループ編成)【自主性、社会性、公益性、無償性】 2回 2)医療におけるボランティア活動の現状(①インターネット検索【テーマ選択、情報収集】 ②インターネット検索(まとめ)【情報分析】 3回 ③第一次発表【ボランティアの種類、活動内容、活動方法、質疑応答】 4回 ④補足発表(第一次発表時の宿題を発表)【ボランティア活動内容、活動方法、質疑応答】 5回 3)各自のボランティア活動体験発表【ボランティア活動内容、活動方法、質疑応答】 6回 4)ボランティア活動見学と討議①(牛久市:ボランティア・市民活動)【さまざまな市民活動、コーディネーターの役割】 7回 ボランティア活動見学と討議②(牛久市:おおぞら)【知的障害、就労支援、地域生活支援、グループホーム】 8回 5)ボランティア活動の課題および問題点【受け手のニーズ把握、自己管理、継続性】 9回 6)討議:ボランティア活動に必要な課題教育と支援【受け手のニーズ把握、自己管理、継続性、支援課題】 10回 7)見学:医療ボランティア、ホスピス病棟(予定)【ボランティア活動内容、自主的な取り組み、状況判断、受け手のニーズ】 11回 討議:医療ボランティア、実践報告を聞き質疑を行う 【ボランティア活動内容、自主的な取り組み、状況判断、受け手のニーズ】 12回 討議:ボランティアを受入れる側に必要な教育と組織運営【情報公開、コーディネーター、組織運営、ボランティア教育】 13回 討議:ボランティアを支える社会整備【地域ネットワーク、NPO、行政との連携、ボランティア教育】 14回 課題整理 15回		
教科書	茨城県立医療大学「医療とボランティア活動」演習書		
授業の工夫点			
授業の評価方法	演習・討議参加中の態度(20%)、討議資料報告(30%)、最終レポート(50%)		
授業のサポート体制	ない		
学外の関係機関・団体との連携	牛久市おおぞら(知的障害、就労支援、地域生活支援、グループホーム)		
今後の授業の継続	今後も継続		

○ 長野県看護大学

授業科目名	異文化看護学／異文化看護学演習		
担当教員（学内又は学外）	学内教員	授業期間	半期
担当教員の専門分野	国際看護学	共通・専門等の別	専門
開設学部(学科)及び年次	看護学部2年次・編入1年次	授業のレベル	初級・入門
平成20年度履修者数	計87名（男子学生7名 女子学生87名）	授業区分	講義、演習
単位数	2	ボランティア体験の時間数	6時間
必修・選択の別	必修		
授業目的	地域在住の移住外国人を理解し支援する。		
授業内容	国内の移住外国人を理解し、異文化背景を持つ人々への看護を学ぶ。授業内で、「長野県外国人健診」事業へのボランティア参加を促し、体験報告書の提出により、追加点数を提供する。		
教科書	看護学実践-Science of Nursing- 国際看護学		
授業の工夫点	ボランティア参加は学生の自主性を尊重する。		
授業の評価方法	課題提出物＋試験		
授業のサポート体制	ない		
学外の関係機関・団体との連携	長野県企画部人権男女共同参画課		
今後の授業の継続	今後も継続		

○ 埼玉県立大学

授業科目名	社会参加活動		
担当教員(学内又は学外)	学内教員	授業期間	通年
担当教員の専門分野		共通・専門等の別	共通
開設学部(学科)及び年次	保健医療福祉	授業のレベル	初級・入門
平成20年度履修者数		授業区分	講義
単位数	1	ボランティア体験の時間数	
必修・選択の別	選択		
授業目的	広い社会の中にある様々な人々や組織による活動に自発的に参加し、様々な社会的役割に触れることで、自分の社会的役割のあり方を考え、社会的役割を獲得していくための試行錯誤する力を養うことを目的としている。		
授業内容	1 オリエンテーション 2 社会参加の場面の紹介とアクセスの方法、活動の留意点 3 これまでの各自の社会参加活動の紹介と今後の意向についてのディスカッション 4 興味ある活動の基礎調査とコンタクト、及び実際の活動への参加による活動内容の理解 5 活動内容とその感想に関するディスカッション 6 活動報告書の作成と提出 7 活動報告書の講評と全体のまとめ		
教科書			
授業の工夫点			
授業の評価方法			
授業のサポート体制			
学外の関係機関・団体との連携			
今後の授業の継続			

○ 神奈川県立保健福祉大学

授業科目名	ボランティア・市民活動論(授業名以外は非公開)
-------	-------------------------

○ 名古屋市立大学

授業科目名	ボランティア科目		
担当教員(学内又は学外)	学内教員	授業期間	通年
担当教員の専門分野	農業経済学	共通・専門等の別	共通
開設学部(学科)及び年次	在学生全員	授業のレベル	初級・入門
平成20年度履修者数	計2名(男子学生1名 女子学生1名)	授業区分	実習
単位数	1	ボランティア体験の時間数	30時間
必修・選択の別	選択		
授業目的			
授業内容			
教科書			
授業の工夫点			
授業の評価方法			
授業のサポート体制			
学外の関係機関・団体との連携	ある		
今後の授業の継続	今後も継続		

授業科目名	人間性の探究 5		
担当教員(学内又は学外)	学内教員	授業期間	
担当教員の専門分野		共通・専門等の別	
開設学部(学科)及び年次		授業のレベル	
平成20年度履修者数		授業区分	
単位数		ボランティア体験の時間数	
必修・選択の別			
授業目的			
授業内容			
教科書			
授業の工夫点			
授業の評価方法			
授業のサポート体制			
学外の関係機関・団体との連携			
今後の授業の継続			

○ 大阪市立大学

授業科目名	教育学実習		
担当教員（学内又は学外）	学内教員	授業期間	半期
担当教員の専門分野		共通・専門等の別	専門
開設学部（学科）及び年次	文学部 2・3年次	授業のレベル	中級・応用
平成20年度履修者数	計17名（男子学生4名 女子学生13名）	授業区分	実習
単位数	2	ボランティア体験の時間数	15時間以上
必修・選択の別	選択必修		
授業目的	教育学研究には、教育学実践研究など、研究対象・研究方法いずれにおいても教育実践現場に密接した研究分野もあれば、教育哲学などのようにどちらかと言えば思弁的要素の強い研究分野がある。しかしながら、教育の実態や教育実践を踏まえない教育学研究はありえない。大学における教育学研究は、とすると文献研究、理念研究に偏りがちであり、教育実践現場の経験がほとんどない学生は、現実を踏まえない理想論に終始することが少なくない。そこで、本科目では、大阪市学校支援学生ボランティア制度の機会を利用して学校における教育実践に参加し、教育の現実から教育学を考察しなおす契機とすることを目的とする。		
授業内容	①大阪市学校支援学生ボランティア事前指導（前期に行う） ②発表要領とパワーポイントによるプレゼンテーションについて ③④ワークショップ ⑤⑥フィールド校の概要 ⑦⑧⑨モノから読み解くフィールド学級の特徴 ⑩⑪⑫注目している児童生徒の変化について ⑬⑭⑮教師の働きかけについて		
教科書			
授業の工夫点	冊子「教育学実習の手引き 2008」配布		
授業の評価方法	授業中の発表とレポート		
授業のサポート体制	ない		
学外の関係機関・団体との連携	大阪市教育委員会		
今後の授業の継続	今後も継続		

授業科目名	教職総合演習Ⅱ		
担当教員（学内又は学外）	学内教員	授業期間	集中授業
担当教員の専門分野		共通・専門等の別	その他（教職に関する科目）
開設学部（学科）及び年次		授業のレベル	上級
平成20年度履修者数	計17名（男子学生7名 女子学生10名）	授業区分	演習
単位数	2	ボランティア体験の時間数	30時間以上
必修・選択の別	選択必修		
授業目的	本演習は、人類に共通するテーマや我が国の社会全体に関わるテーマについて、教員を志望する者の理解を深めその視野を広げるとともに、これら諸問題に係る内容に関し適切に指導することができるようにすることを目的とする。演習Ⅱでは、大阪市学校支援学生ボランティア等に参加することにより、体験的・実践的に上記の問題を考える。また、自らのボランティア体験を踏まえ、生徒のボランティアのあり方についても考察する。		
授業内容	○オリエンテーション（第1回授業・前期に行う） 「教職総合演習Ⅱの手引き」配布 大阪市学校支援ボランティア制度の利用にあたって レポートの要領 ○レポートA（ボランティア校決定時に作成） ○大阪市の中学校・小学校・幼稚園におけるボランティア ○レポートB（ボランティア終了後に作成）		
教科書			
授業の工夫点	冊子「教職総合演習Ⅱの手引き 2008」配布		
授業の評価方法	レポート		
授業のサポート体制	ない		
学外の関係機関・団体との連携	大阪市教育委員会		
今後の授業の継続	今後も継続		

○ 奈良県立大学

授業科目名		ボランティア論Ⅰ	
担当教員（学内又は学外）	学外教員	授業期間	半期
担当教員の専門分野		共通・専門等の別	専門
開設学部（学科）及び年次	地域創造学部2年次配当	授業のレベル	初級・入門
平成20年度履修者数	計87名	授業区分	講義
単位数	2	ボランティア体験の時間数	
必修・選択の別	選択必修		
授業目的	<p>阪神・淡路大震災以来、災害や福祉分野におけるボランティアの必要性は認知されてきたが、最近では、より組織的・継続的に地域福祉や公共的なサービスを展開するNPOの存在がクローズアップされている。人の役に立つボランティア活動への潜在的な関心や興味をもつ学生は多く、また最近ではやりがいのある仕事を求めてNPOを就職の選択肢とらえている学生も出てきたが、自分とどうつながるのか知識や情報を得る機会は少ない。</p> <p>この講義では前期でボランティアとは何か、NPO団体とはどのような組織なのか等を学ぶとともに、ゲスト講師を招いて多様な市民活動の概要や社会的役割などについて知る機会を設ける。後期は前期授業を受けて、実際に関心をもった分野について更に深く研究や調査を行うとともに、出来ればフィールドワークとしてボランティアやNPO活動を体験する機会を開拓する。</p> <p>1年間で理論と実践の両面から学び、社会参加にむけての理解と意欲を広げ、課題解決に主体的に行動する市民を育成することを目標とする。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション:授業のガイダンス 2. ボランティア・NPOとは:NPOの歴史・制度・社会的役割とその現状 3. テーマ別事例紹介:環境問題・自然保護とNPO 4. " :国際交流・地域の国際化とNPO 5. " :国際協力・海外援助とNPO 6. " :人権問題・ジェンダーとNPO 7. " :まちづくりとNPO 8. " :地域福祉とNPO 9. " :健康・保健・医療とNPO 10. " :子育て支援とNPO 11. " :教育とNPO 12. " :職業としてのNPO・社会的起業 13. " :CSR・企業の社会貢献活動 14. インターンに向けて:NPOでのインターンシップの役割 15. テスト:まとめのテスト 		
教科書	「知っておきたいNPOのこと」(日本NPOセンター著)		
授業の工夫点			
授業の評価方法	出席(20)昼間のコメントペーパー(20)テスト(60)		
授業のサポート体制			
学外の関係機関・団体との連携			
今後の授業の継続	今後も継続		

授業科目名		ボランティア論Ⅱ	
担当教員（学内又は学外）	学外教員	授業期間	半期
担当教員の専門分野		共通・専門等の別	専門
開設学部（学科）及び年次	地域創造学部2年次配当	授業のレベル	中級・応用
平成20年度履修者数	計45名	授業区分	実習
単位数	2	ボランティア体験の時間数	
必修・選択の別	選択必修		
授業目的	<p>阪神・淡路大震災以来、災害や福祉分野におけるボランティアの必要性は認知されてきたが、最近では、より組織的・継続的に公益活動を展開するNPOの存在がクローズアップされている。またボランティア活動に対して関心のある学生や、就職の選択肢と捉えている学生も出てきたが、実際に現場で活動するNPOと直接接点を持つ機会は少ない。</p> <p>この講義では前期でNPO・ボランティアについて学んだことを踏まえ、実際に関心をもった分野のNPOでフィールドワークやフィールドリサーチを通して、更に深く研究や調査を行う。前期講義とあわせ、年間で理論と実践の両面からNPO・ボランティア活動について学び、社会参加にむけての理解と意欲を広げ、課題解決に主体的に行動する市民を育成することを目標とする。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション:授業の狙い・スケジュール・評価方法について 2. インターンシップに向けて:活動参加への心得 受け入れ先との調整 3. インターンシップ(1):活動先団体との日程調整で決定 4. " (2): " 5. " (3): " 6. " (4): " 7. " (5): " 8. " (6): " 9. " (7): " 10. " (8): " 11. " (9): " 12. " (10): " 13. " (11): " 14. 報告書の作成 15. 発表・まとめ 		
教科書	講義中に適宜必要に応じ指示		
授業の工夫点			
授業の評価方法	出席(30)毎回の活動報告(30)期末レポート(40)		
授業のサポート体制			
学外の関係機関・団体との連携			
今後の授業の継続	今後も継続		

授業科目名	NPO・NGO論		
担当教員（学内又は学外）	学外教員	授業期間	半期
担当教員の専門分野		共通・専門等の別	専門
開設学部（学科）及び年次	地域創造学部3年次配当	授業のレベル	初級・入門
平成20年度履修者数	計74名	授業区分	講義
単位数	2	ボランティア体験の時間数	
必修・選択の別	選択必修		
授業目的	これからの地域社会を考えると、政府（行政）セクターや企業セクターと並んで市民セクターが鼎立し、相互に協働することも重要であり、その中でも先導的な役割を果たすNPO・NGOの活動がより重要である。 このため、NPO・NGOの意義、機能、組織、活動領域、そのあり方・課題などについて複数の講師により幅広く講義して、皆さんが今後NPO・NGOの活動に積極的に参画されることを願って、授業を展開します。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. NPO総論①－NPOとは 3. NPO総論②－NPOのマネジメント 4. NPO総論③－ステークホルダーとの関係 5. NPO総論④－中間支援組織 6. アソシエーションとNPO 7. NPOと行政・企業との協働 8. コミュニティ・シンクタンク 9. コミュニティ・ビジネスなど社会的企業 10. 地域経済とNPO①－地域活性化とNPO 11. 地域経済とNPO②－観光とNPO 12. まちづくりとNPO－奈良まちづくりセンターの活動から 13. 国際理解・NGO① 14. 国際理解・NGO② 15. 国際理解・NGO③ 		
教科書	必要に応じてレジュメ・資料を配布する。		
授業の工夫点			
授業の評価方法	出席状況とレポート提出により評価する。		
授業のサポート体制			
学外の関係機関・団体との連携			
今後の授業の継続	今後も継続		

○ 神戸市看護大学

授業科目名	ボランティア活動		
担当教員（学内又は学外）	学内教員	授業期間	通年
担当教員の専門分野	多岐にわたる	共通・専門等の別	その他（総合科目）
開設学部（学科）及び年次	看護学部1・2・3年次	授業のレベル	その他
平成20年度履修者数	計74名（男子学生2名 女子学生72名）	授業区分	演習
単位数	1	ボランティア体験の時間数	45時間
必修・選択の別	選択		
授業目的	ボランティア活動を通じて、「他者を知る」「社会を知る」「自分を知る」ことができ、援助職としての自己の基盤作りができることをめざします。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2～22. ボランティア活動（各自） 		
教科書	使用しません。		
授業の工夫点			
授業の評価方法	活動記録とレポートから総合的に評価する。		
授業のサポート体制	ない		
学外の関係機関・団体との連携	ない		
今後の授業の継続	今後も継続		

○ 兵庫県立大学

授業科目名	NPO・NGO論		
担当教員(学内又は学外)	学外教員	授業期間	集中授業
担当教員の専門分野		共通・専門等の別	専門
開設学部(学科)及び年次	環境人間学部2年以上	授業のレベル	初級・入門
平成20年度履修者数	計60名	授業区分	講義
単位数	2	ボランティア体験の時間数	なし
必修・選択の別	選択		
授業目的	近年、社会的役割が注視されるNPO(非営利組織)、NGO(非政府組織)について、その定義、社会的役割・意義、組織の運営形態ならびに課題を中心に国内、海外の事例等を踏まえ学習するとともに、NPO・NGOの活動を通じた地域および国際社会の抱える諸課題に対する解決策等について考察する。		
授業内容	授業計画 1 NPO組織の定義と概要 ①NPOの定義(広義の概念と狭義の概念) ②組織としての特性 2 NPOの社会的役割・意義 ①NPOの出現背景 ②NPOの社会的役割 3 米国のNPO組織に関する一般論 ①米国社会とNPO(概要) ②NPOに関わる社会制度(法人格制度、税制優遇措置 など) ③組織構成と具体的運営方法 ④NPOへの評価 ⑤地域サポートシステムと中間組織(MSO)の役割 4 日本のNPO活動(その現状と課題) ①NPO法の施行とNPO活動への影響 ②NPOの財政基盤と税制優遇措置の導入 ③組織マネジメントと人材確保・育成 5 NPOにとっての経営マネジメント(米国NPOを例として) ①NPO活動と組織マネジメント(その必要性について) ②理事会と事務局の役割 ③予算と財務(NPOにとっての予算、資金の種類、ファンドレイズ手法等) ④戦略計画の策定 ⑤プログラムの企画 ⑥ボランティア・マネジメント 6 パートナーシップの可能性(行政、企業とのパートナーシップ) 7 NGOの現状と組織に関する一般論		
教科書			
授業の工夫点			
授業の評価方法	出席状況・レポート		
授業のサポート体制	ない		
学外の関係機関・団体との連携	ない		
今後の授業の継続	未定		

○ 下関市立大学

授業科目名	非営利組織マネジメント		
担当教員(学内又は学外)	学内教員	授業期間	半期
担当教員の専門分野	非営利組織論	共通・専門等の別	専門
開設学部(学科)及び年次	経済学部(国際商学科3、4次生対象)	授業のレベル	中級・応用
平成20年度履修者数	計27名(男子学生16名 女子学生11名)	授業区分	講義
単位数	2	ボランティア体験の時間数	なし
必修・選択の別	選択		
授業目的	ボランティア集団、非営利組織のマネジメントを学び、様々な集団に適応可能な知見を得ること		
授業内容	ボランティア・モチベーション、ボランティアリクルート、フラットな組織の維持、官僚制組織への移行と組織運営のジレンマ、ミッションの重要性、非営利マーケットの特徴、リーダーシップと意思決定、プロフェッションとボランティアガバナンス		
教科書	学陽書房の「ボランティア・NPOの組織論―		
授業の工夫点	学術的成果の説明の後、実用可能な応用をディスカッション及び発表してもらい、解説を行うという点		
授業の評価方法	授業参加度(発言内容、授業への貢献度)、レポート、試験		
授業のサポート体制	ない		
学外の関係機関・団体との連携	ない		
今後の授業の継続	今後も継続		

○ 高知女子大学

授業科目名	NPO論		
担当教員 (学内又は学外)	学外教員	授業期間	集中授業
担当教員の専門分野	ボランティア・NPO施設職員	共通・専門等の別	専門
開設学部(学科)及び年次	文化学部1～4年次	授業のレベル	初級・入門
平成20年度履修者数	計77名 (男子学生0名 女子学生77名)	授業区分	講義、演習
単位数	2	ボランティア体験の時間数	なし
必修・選択の別	選択		
授業目的	NPOに関する考え方や課題を理解し、今後、NPOが社会の中に定着し活躍するために必要な事柄を考える。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会課題とNPOの必要性(演習) 2. NPOの基本的な考え方(講義) 3. NPO設立までのプロセス(演習) 4. NPOの組織運営の実際(講義) 5. まとめ・レポート作成 6. NPO活動の現状を知るⅠ(講義) 7. NPO活動の現状を知るⅡ(講義) 8. NPO活動の現状を知るⅢ(演習) 9. NPO活動の現状を知るⅣ(演習) 10. まとめ・レポート作成 11. 行政・企業とNPOの協働・パートナーシップ(講義) 12. NPO活動を企画するⅠ(演習) 13. NPO活動を企画するⅡ(演習) 14. 社会課題とNPO活動(講義) 15. まとめ・レポート作成 		
教科書			
授業の工夫点			
授業の評価方法	レポート、講義への参加度などから総合的に行う。ただし、講義へ出席しないものは、レポートを提出することができない。		
授業のサポート体制	ない		
学外の関係機関・団体との連携	ない		
今後の授業の継続	今後も継続		

○ 長崎県立大学

授業科目名	NPO論		
担当教員 (学内又は学外)	学内教員	授業期間	半期
担当教員の専門分野	行政学	共通・専門等の別	専門
開設学部(学科)及び年次	経済学部3年次対象	授業のレベル	初級・入門
平成20年度履修者数	計128名 (男子学生75名 女子学生53名)	授業区分	講義
単位数	2	ボランティア体験の時間数	0時間
必修・選択の別	選択		
授業目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会においてNPOが有する社会的意義、活動原理について理解する。 2. 公益実現をめぐるNPO、企業、行政の相互関係を理解する。 3. NPOの運営管理(組織、経営、社会的責任)について理解する。 4. NPOの活動を支える政策と残された課題を学ぶ。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス:講義の概要・方法 2. 現代社会とNPO:NPOの現状 NPOの概念整理(1):NPOの定義、非営利セクター 3. NPOの概念整理(2):NPOの社会的意義、背景 4. NPOの概念整理(3):NPOの組織・活動の特性、NPOの限界 5. NPOの基盤整備(1):NPO法 NPO法制定の背景、経緯、目的 6. NPOの基盤整備(2):NPO法 法の概要NPOと税制 7. NPOの基盤整備(3):NPO法 法人化の手続き 8. NPOの活動資源(1):NPOの活動資源の実態・課題 9. NPOの活動資源(2):認定NPO法人制度 10. NPOと企業:企業の社会貢献 11. NPOと行政:公共性概念の変遷、公益実現を担う主体 12. NPOマネジメント(1):企業経営とNPOマネジメント 13. NPOマネジメント(2):NPOの組織管理 14. NPOマネジメント(3):NPOの経営管理 		
教科書			
授業の工夫点			
授業の評価方法	定期試験(論述)、レポート、出席		
授業のサポート体制	ない		
学外の関係機関・団体との連携	ない		
今後の授業の継続	未定		

○ 大分県立看護科学大学

授業科目名	障がい者スポーツボランティア養成講座（保健医療ボランティア論）		
担当教員（学内又は学外）	学内教員、学外教員	授業期間	集中授業
担当教員の専門分野	人間関係学	共通・専門等の別	共通
開設学部（学科）及び年次	看護学部1年次	授業のレベル	
平成20年度履修者数	計83名（男子学生6名 女子学生77名）	授業区分	講義、実習
単位数	1	ボランティア体験の時間数	8日間
必修・選択の別	選択必修		
授業目的	ねらい／ 平成20年度 大分県で開催される第8回全国障害者スポーツ大会「チャレンジ！おおいた大会」の選手団担当ボランティア養成講座として開講される。日本各地から大分に集う障がいのあるアスリートと交流し、そのパフォーマンスに触れる機会を提供す		
授業内容	<p>科目の概要／ 障がい者スポーツについて、障がいのある人についての理解、援助技術・介助技術、情報保障のための技術について学ぶ。本学の学生はフライングディスク競技を担当するため、実際の競技も体験する。</p> <p>授業計画／</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障がい者スポーツとチャレンジ大分大会（外部講師：オリエンテーション時に実施） 2. 障がい者福祉について（吉村オリエンテーション時に実施） 3. 視覚障がい者理解と介助技術※（関根・吉村） 4. 聴覚障がいのある人について※（吉村） 5. 肢体不自由のある人の理解と援助技術※（伊東） 6. 知的障がいのある人について※（吉村） 7. 精神障がいのある人について（大賀：4月30日） 8. フライングディスク（外部講師：5月14日：体育館で実技、運動のできる服装） 9. 手話①※（関根） 10. 手話②（外部講師：5月21日） 11. 手話③（外部講師：5月28日） 12. 手話④（外部講師：6月4日） 13. 要約筆記の基礎と実技（外部講師：6月18日） 14. 接遇マナーの基本（外部講師：6月25日） 15. 第8回全国障害者スポーツ大会ボランティア活動（外部講師：9月10日） 		
教科書	選手団担当ボランティア養成講座テキスト（無料配布）		
授業の工夫点			
授業の評価方法	講義への出席、ショートレポートの提出、本大会へのボランティアとしての参加で単位を認定する。筆記試験は行わない。		
授業のサポート体制	学生生活支援委員会		
学外の関係機関・団体との連携	国民体育大会・障害者スポーツ大会局		
今後の授業の継続	今年度のみ		

授業科目名	保健医療ボランティア論		
担当教員（学内又は学外）	学外教員	授業期間	集中授業
担当教員の専門分野		共通・専門等の別	共通
開設学部（学科）及び年次	看護学部3年次	授業のレベル	
平成20年度履修者数	計26名（男子学生2名 女子学生24名）	授業区分	講義
単位数	1	ボランティア体験の時間数	0時間
必修・選択の別	選択		
授業目的	ねらい／ 国際的なボランティア活動、いわゆる発展途上国でのボランティア活動の実践報告を通して、ボランティア活動の現状と本質について考える。それを将来の実践につなげる。		
授業内容	<p>科目の概要／ 講師が体験したパキスタン・アフガニスタンでのNGO活動の実際の報告、他のNGOの活動事例を紹介。またグローバリズムの現状、メディアの報道の問題についても考え、国際的な視野と異文化理解を深める。（スライド／ビデオ使用）</p> <p>授業計画／ 7月22、23日の集中</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現地活動報告 ハンセン病診療 2. 現地活動報告 早魃と医療 3. 現地活動報告 100人の医者より「水を！」 4. 国際医療協力の課題 5. グローバリズムと伝統社会 6. 国際医療協力の現場での難問 1 貧困 7. 国際医療協力の現場での難問 2 異文化問題 イスラム 8. レポート 		
教科書	講師著書「伏流の思考 私のアフガンノート」(石風社) 参考資料配賦		
授業の工夫点			
授業の評価方法	出席とレポート		
授業のサポート体制	ない		
学外の関係機関・団体との連携	ない		
今後の授業の継続	今後も継続		